

③ 小学校 国 語

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

一 次の文章を読み、(一)～(八)に答えなさい。

[Blank area for reading the passage and answering questions (一) through (八)]

(一) 文中の傍線部アでいう、七五調や対句の形式によって言葉に与えられる「特別の力」とは何か、それを端的に言い表した漢字二字の言葉を、文中から抜き出して書きなさい。

(二) 文中の傍線部イ「とりわけ」と同じような意味の二字熟語になるよう、次の空欄に最も適する共通する語を漢字一字で書きなさい。

「格□□」、「特□□」

(三) 文中では次の一文が省略されているが、「I」～「V」のどこに入れるとよいか、その記号を書きなさい。
それは文章を一種のモノにする作業だと言ってもいい。

(四) 文中のAに最も適する言葉を、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 全体の形態 イ 一つの形態 ウ 全体の認識 エ 細部の羅列

(五) 文中の①、②に最も適する言葉を、次のア～ウからそれぞれ一つ選び、その記号を書きなさい。

ア ところで イ あるいは ウ しかし エ つまり
オ もし カ たとえば キ また ク まず

(六) 文中のBに最も適するものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 意味を伝えるだけの道具にすぎない
イ 意味すら伝えられない無色透明な道具にすぎない
ウ 一つの形姿を与えられたモノとして立ち現れる
エ 一つの精神をもった不透明なモノとして立ち現れる

③ 小学校 国 語

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

- (七) 文中の傍線部 a ～ d に用いる最も適する漢字を、次のア～オからそれぞれ一つ選び、その記号を書きなさい。
- | | | | | | |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| a アンシヨウ | ア 証 | イ 承 | ウ 照 | エ 礁 | オ 誦 |
| b キョウモン | ア 門 | イ 問 | ウ 文 | エ 紋 | オ 聞 |
| c フチ | ア 地 | イ 置 | ウ 治 | エ 致 | オ 知 |
| d ヘンボウ | ア 忘 | イ 防 | ウ 傍 | エ 貌 | オ 忙 |

- (八) 文中の傍線部ウについて、次の文は「平家物語」の冒頭部分である。次の①、②にあてはまる語句を、それぞれ漢字二字で書きなさい。

「祇園精舎の鐘の声、諸行 ① の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者 ② の理をあらはす。」

次の表は、漢字の成り立ちについてまとめたものである。あとの(一)、(二)に答えなさい。

種類	成り立ち	例
(a) 文字	目に見える物の形を、具体的にえがいたもの	日、川
指事 文字	目に見えない事がらを、印や記号を使って表したもの	(c)
形声 文字	意味を表す漢字と音を表す漢字を組み合わせたもの	(d)
(b) 文字	意味を表す漢字を組み合わせたもの	休、品

- (一) 表中の a、b に適する語句をそれぞれ漢字二字で書きなさい。
 表中の c、d にあてはまる漢字を次のア～オからそれぞれ二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 手	イ 時	ウ 馬	エ 上	オ 位
カ 本	キ 林	ク 鳴	ケ 木	コ 粉

三 小学校学習指導要領「国語」について、次の(一)、(二)に答えなさい。

- (一) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。①～⑤にあてはまる語句を、左のア～ソからそれぞれ一つ選び、その記号を書きなさい。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 「知識及び技能」に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。

ア 日常の(①)を振り返ることなどを通して、児童が、実際に話したり聞いたり読んだりする場面を意識できよう指導を工夫すること。

イ 理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、(②)を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる(③)が身に付くようにすること。

ウ 第3学年における(④)の指導に当たっては、第5章総合的な学習の時間の第3の2の(3)に示す、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる(⑤)（手段の基本的な操作を習得し、児童が(⑤)や(⑤)（手段を主体的に選択し活用できるよう配慮することとの関連が図られるようにすること。

ア 生活	イ 新聞や雑誌	ウ 外国語活動	エ ローマ字	オ 出来事
カ 方法	キ 習慣	ク 意欲	ケ タイピング	コ 辞書や事典
サ 情報	シ 学校図書館	ス 言語活動	セ 書写	ソ 検索

- (二) 次の①～⑤は、「各学年の目標及び内容」の「内容」で、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」に示されている指導事項である。それぞれの学年の指導事項か、左の a ～ c から選び、その記号を書きなさい。(同じ記号を何度使ってもよい)

- ① 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
- ② 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。
- ③ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
- ④ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。
- ⑤ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

a 第1学年及び第2学年 b 第3学年及び第4学年 c 第5学年及び第6学年